

## 2019年度政務調査研究活動実績報告書

県民の会  
代表 上田 周五

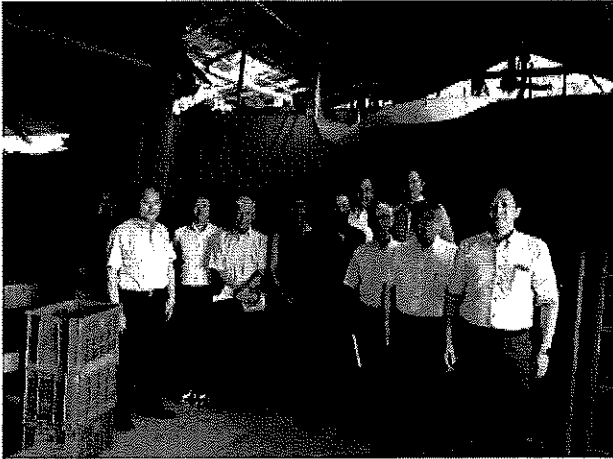
2019年度の政務調査研究に関する主な活動の実施状況は以下のとおりである。

- 1 森林林業政策について
- 2 大阪中央卸売市場における農産物、水産物の流通実態調査について
- 3 香川県における移住政策や外国人生活支援サポートセンターにおける在留支援などについて
- 4 国道33号線の慢性的交通渋滞や事前通行規制区間の解消などについて
- 5 県立高校再編や清水高校の高台移転などについて
- 6 四国内の観光・公共交通・林活議連に出席し情報共有・意見交換
- 7 土佐れいほく博（アウトドアヴィレッジ本山）、スノーピークおち仁淀川キャンプフィールドの視察調査について
- 8 日高特別支援学校高知みかづき分校の視察と特別支援教育について
- 9 日高わのわの会、ケアセンター佐川などを視察の上、障がい者支援、訪問介護事業などについて
- 10 県立海洋高校とインドネシア海洋大学のMOU締結の調査について
- 11 インドネシアにおける調査について
  - ・外国人リクルート、外国人インバウンド、ハラル認証について
  - ・技能実習生送り出し機関の日本語学校視察研修
  - ・インドネシア旅行代理店の視察研修
  - ・看護学校視察研修
  - ・高知龍馬空港へのチャーター便等についての要望
- 12 外国人技能実習機構松山支所における本県技能実習生の現状と課題について
- 13 南海トラフ地震対策など防災・減災について
- 14 県東部における産業振興の取り組みなどについて

## 「会派調査で聞く県東部地域の生の声」

8月5日～6日にかけて、植田壮一郎室戸市長や県議会「緑と青の会」会派の上治堂司議員にコーディネートいただき、室戸市、馬路村方面に県議会県民の会の会派調査を行いました。調査地での報告をしておきます。

### 【吉良川炭工房】



室戸市吉良川町の仙頭さんの炭窯でお聞きした、室戸市の特用林産業である製炭業は、30人の生産者が40基の炭窯で備長炭の製造をおこなわれているとのことでした。

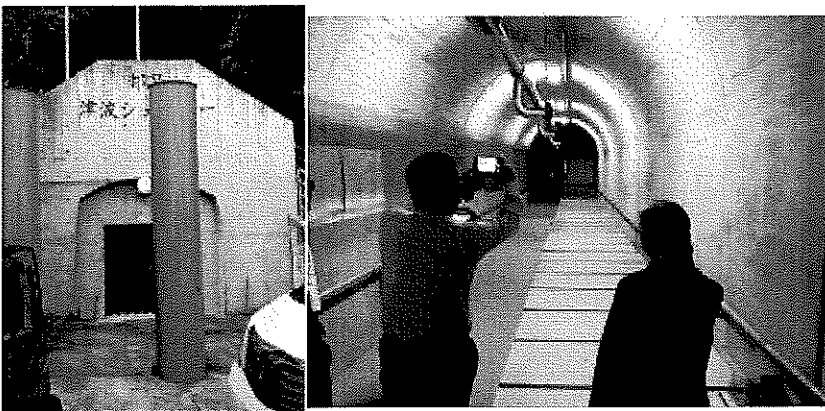
室戸市では、人工林比率が森林全体で50%で、ウバメガシといった特有の種類も存在することから良質な炭の生産が可能であった。そのため明治期より土佐備長炭の産地として有名で、全国一の生産量を誇る高知県のうち57%が室戸市産である。

製炭者の高齢者率は高く、円滑な世代交代による生産技術の継承ができるよう後継者の確保・育成が急務となっており、県の補助事業である高知県徳用林産業新規就業者研修支援事業費補助金を活用し、現在までに15人が研修を実施し、うち10人が新たに製炭経営を開始しています。

また、生産基盤の強化として、作業道に対する支援は、高知県地域林業総合支援事業費補助金を活用し、このほか新規製炭者及び増産に意欲のある製炭者対象に市の単独事業として平成29年度より製炭者整備事業費補助金を創設し、補助を実施しているとのことでした。

土佐備長炭の需要は、近年の和食ブームの影響もあり、需要に比べて以前高い状態であるが、原木のウバメガシの木に虫が入るなど、原木が枯れていく状況にも苦勞しており、ウバメガシが足りなくなっている中で、原木調達への支援がこれからの課題になるのではないかなどの意見が出されていました。

### 【都呂津波避難シェルター】



南海トラフ巨大地震に備えた全国初の横穴式津波避難シェルターとして、室戸市佐喜浜町の都呂地区に2016年に完成したものを見学させて頂きました。

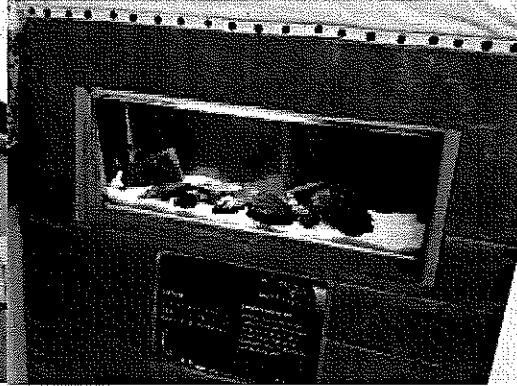
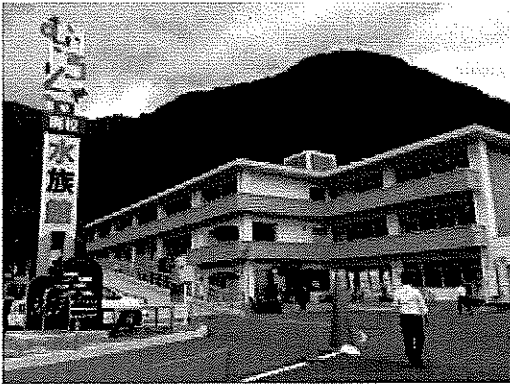
都呂地区付近は、地震発生10～20分で津波第1波が到達し、高さは5～10メートルと予測されており、平地が狭く避難タワー建設が難しい地域で、約200人が暮らすが高齢化率は50%で、体力的に高台への避難が厳しい住民が多いために、県が建設したものです。

着工に向けては、最終的に誰が責任を持って、扉を閉鎖するのかなどその工法に対して懸念

する声は多くあったが、実際現場を見ても、必ずしも解消されるものではありませんでした。

現在、地域でここに避難する訓練が年に一度ほどしか開催されていないと言うが、毎月行われるぐらいになってこそ、この懸念が払拭されるのではないのでしょうか。

### 【むろと廃校水族館】



昨年の開館以来、多くの入館者が殺到しているむろと廃校水族館では、入館者は、この16ヶ月で、予定をはるかに上回る23.5万人に

達する中で、水族館運営は職員4名で行っていたが、現在は7名まで増員し、その内6名が学芸員資格を持っており、将来は博物館も目指したいとのことでした。

当初の予定を上回る黒字経営について、室戸市から指定管理のあり方の検討などもされているようだが、様々な創意工夫の中で、地元の漁師さんや地域と連携した取り組みに多くのリピーターもある中、さらに地域の活性化につながる施設として発展することを期待せざるをえませんでした。

### 【エコアス馬路村】



馬路村では、「森の仕事丸ごと販売計画」を策定し、第3セクター株式会社エコアス町村を設立して、森を育てる、集める、加工する、販売する、還元するなど森の仕事に関する全ての仕事を一貫して行う森の六次産業化を通して、全国的に衰退する林業を元気にしたいとの思いで、これまで様々な製品作りなどが取り込まれてきました。

とりわけ今回は、森を加工する過程での、ご苦勞などについて、作業工程などを見せていただきました。

### 【馬路村農協】



馬路村農協では、「ごっくん馬路村」を始めとした様々な加工製品の作業状況なども見せていただきましたが、今までも余すところなく加工製品にしていたものを、ついには「ゆずの種」を使った化粧品まで製造されるようになり、正真正銘丸ごと製品化されるようになっていきます。

さらに、それぞれ注文者に発送する際のこだわりも直接見せていただくと、驚くことばかりでありました。

役場の方の説明にもあるように、村のモデル世帯は、

男性は林業で働き、女性はゆず加工で働くと言うほどの雇用確保にもつながっていることを目の当たりにした感じでした。

#### 【馬路村役場】

村役場では、山崎村長からのご説明の中で、「住民が生き生きと働く姿のある村づくり」の説明を頂きましたが、その実際をエコアス馬路村や馬路村農協の現場で見せていただいたような気がしました。

馬路村では、地域の資源を生かした村づくりとして小さくても元気な村、一度は行ってみたい村と言う馬路村のブランド化を目指して交流人口の拡大を目指しています。

現在では、特別村民登録者も国内外合わせて11446人までになっています。

産業振興は何よりもゆずの加工品をはじめとしたゆずの振興策と林業の振興策を二本柱に、ますます輝く小さな村として全国に情報発信を続けられ、発展することが期待できるようなそんな取り組みに、学ばせていただきました。

それぞれの調査地では、従来の常任委員会の出先機関調査と違って、本音のお話も聞けて、非常に有意義な調査となりました。